

文部科学省 平成19年度～新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム～

学生支援GP実施報告書2008

総合的人間関係力を涵養する学生支援

～大学と地域で作るプレ社会における実践的トレーニング～



もくじ

ご挨拶	1
学生スタッフ制度	2
Y P U ドリームアドベンチャープロジェクト2008	4
自治会・サークル活動支援、インターンシップ制度	7
県立大学フェスタ2008	8
さまざまな学生活動の支援	10
ファシリテーター講座	
ピアサポート活動、留学生支援	
地域からの各種要請の受託と地域への学生派遣事業	12
小学生対象 なつやすみの宿題ボランティア	
地域災害ボランティア	
放課後こども教室ボランティア	
地域交流ディスクゴルフ大会	
広報・HP	13

ご挨拶

学生活動支援センター所長 人見 英里

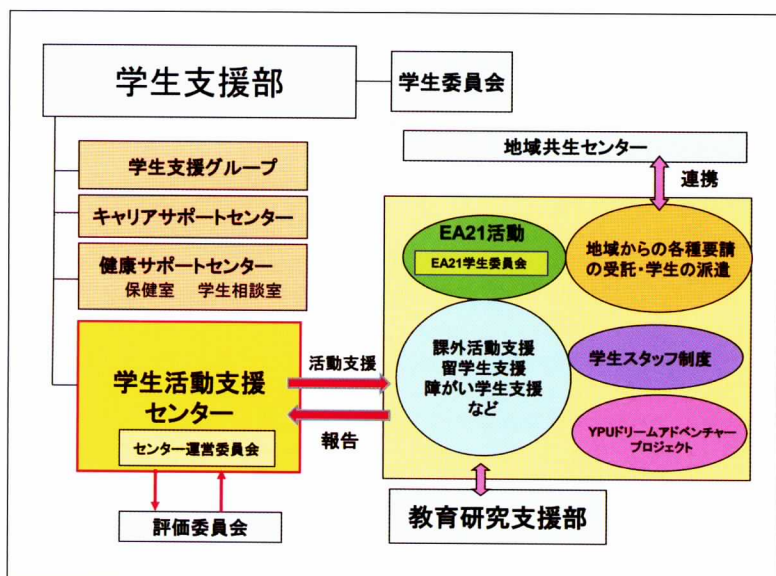
山口県立大学は、平成19年度、文部科学省の支援事業である「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援GP）」に「総合的人間関係力を涵養する学生支援—大学と地域で作るプレ社会における実践的トレーニング—」というテーマで採択されました。このプログラムは、昨今の大学生の「人と関わる力」の低下を、学生個々の能力の低下ではなく生活経験や社会体験の不足から来るものと考え、学生支援の観点からその経験を補っていくことを目的としています。

プログラムを遂行するため、平成20年度に学生支援部の中に新たに「学生活動支援センター」を設置しました。現在、学生活動支援センターは専任職員3名、教員（兼任）2名の計5名で構成されており、上述の目的を達成するため日々奮闘しているところです。

その取組みとして特筆すべきものが「学生スタッフ」制度です。これは、学内の様々な公的活動（入学式、オープンキャンパス、留学生チューター等）に学生をスタッフとして雇用し、学生であっても大学の構成員としての自覚や責任を持ってもらうことを目的としています。4月から3月までの1年間に、延べ200人の学生が計3300時間の活動に従事しました。

さらに、地域に対する学生活動の発信のために、9月20日に「県立大学フェスタ2008」を市内の施設で開催しました。この模様をはじめ、様々な活動は学生活動支援センターホームページ（<http://blog.ypu.jp/gakukatsu/>）に掲載しておりますので、どうか御覧ください。

学生活動支援センターでは学生が生きるために必要な力をつけて社会に巣立てるよう、これからも支援を続けていく所存でおりますので、どうかご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



学生活動支援センタースタッフ

学生スタッフ制度

「学生スタッフ」制度は、学内のさまざまな公的活動（入学式、オープンキャンパス、留学生チューター等）に学生をスタッフとして雇用し、奨励費を支給する事で、大学の構成員としての自覚や責任を持ってもらうだけでなく、経済的支援を行う事も目的としています。また、多世代の人と関わることで人間関係力を向上させることも目指しています。

平成20年度は、延べ200人の学生が計3300時間の活動に従事しました。



平成20年度 学生スタッフ制度 採択業務

- 平成20年度 入学式運営補助
- ピアサポート活動
- 環境「みらい」サミット運営補助
- 大学G Pフォーラム（健康と環境）運営補助
- オープンキャンパス運営補助
- 第7回県看護学研究会運営補助
- 遠隔講義における通信装置の操作補助
- 「医学」（基礎科目）の授業に係る支援
- 交換留学生の日本語チューター及び生活支援（英語・韓国語・中国語）
- 就職ガイダンス、合同企業・病院説明会運営補助
- 憩いと思いやりのある場づくり（学生による駐輪・駐車マナーアップ活動）
- 地域文化の再検討（附属郷土文学資料センター所蔵資料のデータ化）
- 県立大学フェスタ2008運営スタッフ
- ミニオープンキャンパス運営補助（於：華月祭）
- マルチリンガル・スピーチコンテスト運営補助
- 外国人留学生向け生活ハンドブックの原稿作成（中国語版）
- 外国人留学生向け生活ハンドブックの翻訳作業等（中国語・韓国語版）
- 交換留学（派遣学生用）ガイドの作成
- 栄養教諭の専門性の高度化に関する先導的プログラム開発研究会に伴う編集作業等
- 食堂利用に関する希望調査
- 図書館司書業務補助
- 放置自転車の判別のための全自転車への札付け
- 受験生おもてなし
- 平成20年度 卒業式運営補助
- キャリアサポートセンターに関するアンケート調査集計スタッフ

学生スタッフ 業務採択～活動終了までの流れ

学生活動支援センターによる雇用主募集

雇用主（教職員）による業務申請

選考・採択

学生スタッフ募集

説明会



学生活動支援センターによる学生スタッフ選考・採用

スタッフ活動

活動報告（活動日誌・報告書）

平成20年度の学生スタッフ活動の様子を紹介します

入学式・卒業式運営補助



入学式・卒業式の会場設営、会場での案内や写真撮影の誘導等として、おそろいのロゴマーク入りブルゾンで運営に携わりました。



オープンキャンパス運営補助



参加した高校生と保護者の方々に対する案内や誘導係として活動しました。この春本学に入学した1年生も、しっかりとした様子で学内の案内や説明をしていました。

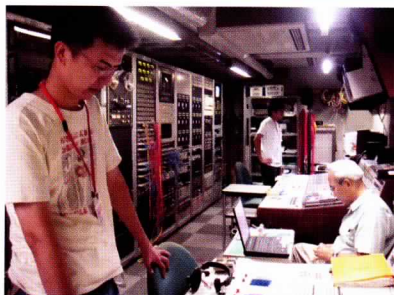


憩いと思いやりのある場づくり 学生による駐輪・駐車マナーアップ活動



学内を巡回し、声かけを行いながら、学内の環境美化とマナーアップ意識の向上に取り組みました。駐輪禁止スペースにあふれる自転車を整理し、マナー違反の自転車・自動車にはマナーアップ活動とあわせて、「放置自転車の整理」の札付けも行いました。

県立大学フェスタ2008運営スタッフ



イベントホールでは、受付や会場案内係として、またシアターでは司会・進行や照明・音響操作などで活躍しました。屋外でも、駐車場誘導係として汗を流しながら活動しました。（詳細は8、9頁）

学生の感想

看護栄養学部 1年女子

（憩いと思いやりのある場づくり
学生による駐輪・駐車マナーアップ活動）

放置自転車が 많이 ことに驚いた。今回だけではなく、定期的に放置自転車があることを調べなければ、駐輪場がすぐにいっぱいになるのではないかなと思った。

最終日には、駐輪場以外にも停めている自転車やバイクは見かけなくなったが、停め方が良くない事に気がついた。もっときれいに停めれば、多くの自転車が停められると思う。注意する人がいなくなれば、また駐輪マナーも悪くなるのではないかなと思った。この取り組みが継続していけると良いと思う。

国際文化学部 1年男子

（県立大学フェスタ2008運営スタッフ）

県立大学フェスタ2008は、より多くの人たちに県立大学を知ってもらうために行われ、そのスタッフとして音響係を担当しました。今年初めてということもあり、段取り、仕事内容、雰囲気などを確認しながら行動しました。スタッフとしての活動を通じて、課題や反省点も多く見つかったので、その経験を生かし、来年以降の開催に繋げていきたいです。その時には、またスタッフとして運営に参加し、県立大学を志望する高校生や、県立大学に入学した1年生にも県立大学の魅力を伝えられるよう、頑張りたいです。

YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008

大学生活をより良くするために学生・院生が自分たちの力を発揮する場として、平成18年度から「YPUドリームアドベンチャープロジェクト」を実施しています。YPUドリームアドベンチャープロジェクトとは、大学生活をさらに楽しく豊かにするために、学生（個人やグループ）が自主的に企画・運営する独創的で魅力的なプロジェクトに対して大学が費用を補助することで、夢の実現を支援する事業です。

※YPU：Yamaguchi Prefectural University（山口県立大学）の頭文字をとったもの

YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008 採択プロジェクト

プロジェクト名	内容
お弁当の日 (大学生の食意識向上を目指した交流の場の提供)	大学生の食意識向上と地域交流を目的とし、テーマに沿った料理を各自持ち寄る。学部学科、教員、学生を超えた情報交換や、食について話し合う時間の提供と、「おいしく・楽しく・学べる」場の提案。
心も体も健康になる「ヘルサー」	地域の高齢者を対象とし、学生との交流会を通じて身体・精神・社会的に両者が健康になること、また学生と地域とのコミュニケーションの促進を目的とする。測定やアンケート実施により、プロジェクトの成果を問う。
宮野交流会～地域の方と料理教室～	山口の料理や特産品をテーマに、地域の方と学生の交流の場となる料理教室の提供をする。
YPU「ゆめの森」づくり	地域と連携し、大学の自然環境の整備を図る。両者が協力しながらシイタケの栽培を行うことを通じた、学生への学習の場の提案、また自然公園として大学の森を地域に開放する。
YPU WORLD BAZAR	3回のイベントを通じて、小・中学生の異文化や国際問題への興味を引き出すことを目的とする。地域と留学生・外国人が交流し、国際意識と相互理解、両者のつながりを深める。
県大発 自然体感プロジェクト及びエコアクション21学生委員会活動	県内の一般公募者とともに環境について見直す、体験型環境教育イベントの実施を提案。
「釜山からもおいでませ山口へ」調査隊	関釜フェリー利用者にアンケートを実施し、山口県の観光の実態を調査する。地域の活性化や、山口・福岡・釜山の3都市連携の観光産業を発展させる手がかりとする。



県大発自然体感プロジェクト及びエコアクション21学生委員会活動

7月



本学で7月26日に開催された「環境『みらい』サミット」にEA(エコアクション)21学生委員会は主催大学として、企画運営を行い、討論会のメンバーとしても参加しました。参加校は、佐賀大学・北九州市立大学・山口大学・島根大学・野田学園高等学校のほか、一般の方も加わって、環境の「みらい」について、大討論を展開しました。「環境『みらい』サミット」のあとは、参加大学学生の交流会を行いました。



野田学園高等学校の生徒に対する「環境『みらい』サミット」の事前学習の様子

9月



7月に行った「エコ学習会」に参加した生徒がスタッフとなり、野田学園文化祭で「かんきょうフォーラム」が開催されました。EA21学生委員会からも参加し、「山口県立大学 環境への取り組み」をテーマに15分間のプレゼンテーションを行いました。フォーラム後半は、野田学園中学・高校の生徒、教員、EA21学生委員をパネラーとし、パネルディスカッションが行われました。

10月

「県立大学フェスタ2008」において、EA21学生委員会の活動を記した新聞や緑のカーテン成長記を作成し、展示にて発表しました。当日は、パソコンを用いて常時「分別ゲーム」も行い、来場者に好評でした。



11月



大学祭では、ゴミステーションを運営しました。ゴミ分別を行うことで、クリーンな大学祭を目指します。EA21学生委員会キャラクター「ecoco(エココ)」が、パネルの上で植物と共演しています。

12月



東京での「エコプロダクツ2008」に出展し、本学の環境に対する取り組みを紹介しました。



『釜山からもおいでませ山口へ』調査隊

私たち調査隊は、山口県立大学が位置する山口県における観光の実態を踏まえ、釜山から下関へのフェリー利用者に対して、アンケートを実施し観光動態を明らかにすることを目的に調査を行っています。山口県観光交流課、在広島大韓民国総領事館からの御後援も頂き、10月から活動を本格的に開始しました。

夏休み期間中は、山口県庁やこの調査の前例となる福岡アジア都市研究所を訪問し、アンケート作成に必要な情報収集をしました。10月からは、韓国語版のアンケートを作成し、毎週のように調査隊が下関のフェリー乗り場へ行き、韓国から日本へ観光に来られた方々にアンケート協力の声を掛け、観光動態を調査しています。

最近では、調査隊以外（地域実習履修者）の学生も加わり、ますますやる気を増してきています。調査を進めるにあたって改善すべき点も見えてくるようになり、アンケートを依頼する際の話しかけ方を考えたり、調査隊をもっと目立たせるように旗を立てたり、喜ばれる粗品を考えたりと様々な工夫を凝らしながら進めています。

いよいよアンケート調査も折り返しに入り、現時点で300部集まりました。これからも、調査隊一同、1月の報告会にむけ、まだまだ頑張っていきます。

(2008年11月26日)



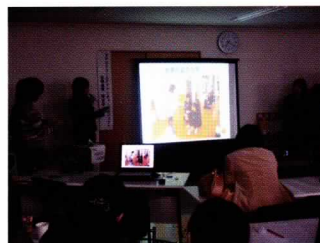
報告会

1月末に「YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008」成果報告会を開催しました。

会場には、選考委員の方々をはじめ、会場がいっぱいになるほどの学生や教職員の参加もあり、大変盛大な会となりました。

各プロジェクトとも、7月から1月までの短い期間の中での取り組みでしたが、企画当初の目標達成に向かって、創意工夫していることが伝わってきました。パワーポイントを使って、熱のこもった発表が行われ、あっという間に予定の2時間が過ぎました。発表後の質疑応答も活発に行われました。

来年度に向けての新たな企画を既に計画中のグループもあり、これからも山口県立大学の「元気」を大学内外に発信していくことが期待されます。YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008の報告書は、学生活動支援センターで閲覧できます。



学生の感想

- 学生が主体的に、また継続的に活動していくべきだと思う。
- もっと認知度を高め、地域に通じた活動を増やして活動の幅を広げる必要がある。
- 一度築いた繋がりを今後どうつなげていくかが大切。
- 今後も継続して活動したい。
- 計画の大切さと自主的に動かなければ何事も進まないことを学んだ。
- 情報提供を行う際、正確に伝える必要を学んだ。
- 自分自身が成長していきたいと思った。
- 物品購入の用途が限られていたため、十分に活用する事が出来なかった。
- 地域との交流が楽しかった。見ている視点が違うんだなと思った。地域の新しい面を見つけることが出来た。
- 企画を理解してもらい、参加者を集めることの難しさを学んだ。外部との連携法などを学び、有意義な時間を過ごせた。
- 自分で勉強するだけでなく、人と関わることが一番勉強になった。

自治会・サークル活動支援



山口県立大学学生自治会は、今年度を「新しい自治会」のスタートと位置づけ、自治会の再組織化を図りました。自治会役員がサークル連合会役員を兼ねる等、自治会・サークル連合会が連携し、継続的に会議を行いました。今年度は、主にサークルへの助成金についての新ルールの制定に力を注ぎました。

また、大学祭に大規模な予算配分を行うなど、今までにない形で学生活動の活性化にも挑戦しました。6月と11月の大学祭では延べ66人の学生が実行委員として活動し、おそろいの法被で、学内だけでなく、地域も巻き込んで大学祭を盛り上げました。

11月には学生総会も開催するなど、学生自治組織として積極的に活動を行いました。今年度は、17名の学生が自治会・サークル連合会役員として活動しました。

年度末には、自治会・サークル紹介誌「有隣」を発行し、今年度の活動の集大成としました。

さらに来年度に向けては、季節ごとの自治会主催のイベントも新たに企画中です。



平成20年度 水無月祭実行委員会

インターンシップ制度

正課インターンシップ以外にも、学内インターンシップ、課外インターンシップを奨励しています。学外関連団体とセンターが連携する事により、多くの学生に対して実践的なトレーニングを行う場を提供するのが目的です。平成20年度は、夏季休業中に5名の学生が正課外のインターンシップを行いました。



学内インターンシップの様子



インターンシップ報告会の様子（10月）

平成20年度のインターンシップ生（正課外）

- ・課外インターンシップ生 1名（学生活動支援センター経由でインターンシップ）
- ・学内インターンシップ生 2名（本学地域共生センターでの短期インターンシップ）
- ・警察インターンシップ生 2名（山口県警でのインターンシップ）

県立大学フェスタ2008

地域において、学生の様々な活動を紹介するための初の試みとして「県立大学フェスタ2008」が開催されました。高校生・保護者の方を中心とした地域の方々約100名にご来場いただき、無事終了することができました。

中でも学生や教職員による相談コーナーは盛況で、親子で入試に関する質問などをする様子が見られました。子供たちには、2人乗り自転車タンデムや、E A 21学生委員会のごみ分別ゲームが人気でした。他にも韓国民族打楽器サムルノリの演奏、また高齢者の疑似体験コーナーなど、他ではなかなか味わえないようなプログラムも充実し、「県立大学フェスタ」にふさわしい内容となりました。

多目的シアターにおいては、音楽系サークルの演奏や踊り、演劇の他、「県大ー受けたい授業」として4人の教員によるミニ講義が開講されました。また、高大連携校である野田学園高等学校の自主制作映画「最後の教室」等も上映されました。



会場では、イベントホールにサークルなどによる展示や体験コーナー、入試や学生生活の相談ブースなどが設けられ、多目的シアターではダンス・音楽系サークルのステージや県大ー受けたい授業が開講されるなど、訪れた人達を楽しませていました。



ステージ



演劇のステージ。迫真の演技でした。



奄美連合秋組のよさこいでは、手拍子で会場がひとつに！



フラメンコサークルの優雅な演技は会場を魅了していました。



韓国民族打楽器サムルノリも登場！

県大ー受けたい授業開催！



「家族と子育てのあり方」「情報倫理って何？」など本学の教員によるミニ講義「県大ー受けたい授業」も開催しました。会場のお客さんを巻き込んだ楽しい講義が行われました。

展示・体験コーナー



なんでも相談コーナーは、大学生や教職員が大学生活や入試に関する相談を受け付け、多くの高校生や保護者の方が訪れました。

相談コーナーが大盛況でした！

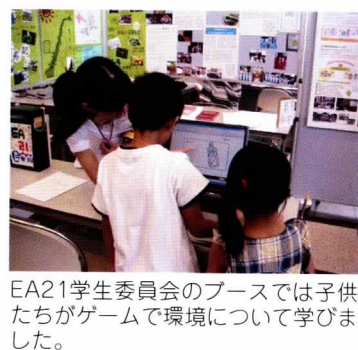


案内係、駐車場スタッフとして、一緒にフェスタを盛り上げました！



受付では来場者に山口県立大学オリジナル「YPUクッキー」のプレゼントも！

当日は、多くの学生たちが、参加団体のメンバーとして、あるいは、学生スタッフとして活躍しました。学生たちの活動を通して、県立大学の様子を地域の方々に知っていただくよい機会となりました。



EA21学生委員会のブースでは子供たちがゲームで環境について学びました。

体験コーナーでは、茶道部の薄茶コーナーが人気を集めていました。



栄養学科のフードモデル展示はわかりやすさが好評でした。



国際化推進室のブースが高校生でにぎわっていました。



環境デザイン学科 服飾研究会の学生による、華やかなドレスの展示をしました。

参加者の声

- 大学祭より、フェスタの内容の方が学生の活動を伝えることができるのではないかと。
- 自分たちの活動を見つめなおすことができました。
- 楽しんで参加できた。
- もっと多くの人に会場に来て欲しい。
- 学校の活動を幅広く紹介できた。
- 地域の人と触れ合ったり、興味を持って展示などを見てもらえた。
- 1回目で、来場者が少なかったように思うが、継続すれば認知度も高まり、活動の伝え甲斐も高まると思う。
- もっと大学の近くで行うと、さらに地域の方などの来場も期待でき、楽しそうだ。
- プロジェクト計画、スタッフ作業など今まですることのなかった事を体験できた。

※フェスタ終了後の参加者アンケートから一部を抜粋。

さまざまな学生活動の支援

ファシリテーター講座

「ファシリテーター講座」は学生支援GPの「体験型セミナー」として実施したものです。

“ファシリテーター”とは、会議や集会など、人が集う場所でのコミュニケーションを円滑にし、メンバーそれぞれの経験や知恵や意欲を上手に引き出していく進行役です。学びや創造活動を進めていながら、みんなが納得のいく意見交換の出来る「参画型会議」を組立てていく役割を持っています。そんなファシリテーターを目指して、学生と教職員合わせて30名の申込みがありました。

講師3名を迎え、11月から全3回にわたって、「ワークショップってなに?」「体験!目からウロコのワークショップ」「スゴイ!会議進行のワザあれこれ」をテーマに、実際にワークショップを体験しながら進められました。ワークショップでは、ルールをいくつか設定し、どんな小さな意見でも一つの意見として尊重します。それぞれが意見をカードに書いて出し合い、みんなまでまとめていきました。



やや硬めの雰囲気や気分をやわらげるための“アイスブレイク”も、席に着いたままできるものから体を使って行うものまで様々でした。

また、「EA(エコアクション)21学生員会の活動を広げるためのアイデアを考えよう」という議題で模擬ワークショップも行いました。

最終回には、前回までの振り返りをしつつ、これまでに出てきた疑問や質問に講師が答えていくという形で進められました。

YPUドリームアドベンチャープロジェクトに採択された「お弁当の日」のメンバーからは、12月20日に開催された食育ワークショップ『おいでませ!!お弁当の日』の報告があり、この講座で学んだことを実践し大成功だったとのことでした。

ファシリテーター講座は、初の試みでしたが、全講座を通して受講者の熱意とやる気を感じました。来年度はもっと多くの方に参加していただけるよう、日程や時期にも配慮し、広報にも力を入れていきますので、どうぞみなさまご参加ください。



ピアサポート活動

ピアサポーターとは、新入生がキャンパスライフになじんでいくまでの期間、学生生活上の諸々の相談にのる、上級生の学生ボランティアスタッフのことです。

平成20年度4月からピアサポート活動を始め、ピアサポーターの養成に努めています。9月にはピアサポーターを養成する合宿研修を2日間行いました。研修は、学生同士のロールプレイなどの体験学習、ピアサポート活動についての講義およびディスカッションと多彩な内容でした。参加学生は18名で、講師として、本学学生相談室カウンセラー3名が指導にあたりました。参加学生の多くが、ソーシャルワーカーや養護教諭など対人援助職を目指しており、「この研修だけでも、将来のためにとっても役に立つと思う」、「カウンセリングや相談活動についての具体的なイメージが描けたことが収穫だった」などの感想が寄せられました。



対人距離のワーク



研修プログラム

- ・自己紹介ゲーム
- ・対人距離のワーク
- ・講師によるカウンセリングのデモンストレーション
- ・学生同士のロールプレイなどの体験学習
- ・ピアサポート活動についての講義およびディスカッション



県立大学フェスタ2008では、ピアサポーターによる相談コーナーも開催しました！

留学生支援



昨年度から留学生と日本人学生の交流の場の提供の為に、交流会「Y&I」を開催しています。今年度は、7月に留学生と日本人学生との交流会「Y&I スタート昼食会」が開催されました。留学生7名、日本人学生7名が集まり、和やかな雰囲気の中で今後の予定が話し合われました。「りんご狩りに行く」「焼き芋会をしたい」などの秋のイベントのアイデアが出されました。

11月には、宮島へのバスツアーを行いました。留学生と日本人学生がペアを組み、もみじ饅頭手作り体験もしました。留学生と日本人学生がお互いの言葉を教えあったり、文化の違いについて話したりしながら、交流が深まりました。



* **Y & I** には
Yamaguchi & International、You & I、友&愛
 など、いろいろな意味が込められています。

地域からの各種要請の受託と地域への学生派遣事業

小学生対象 なつやすみの宿題ボランティア



「小学生のためのなつやすみの宿題楽しく学ぼう会」を開催し、3日間にわたって、大学生のボランティアが小学生の宿題のサポートをしました。子どもたちは、大学生に教わりながらパソコンや本で調べものをしたり、手芸や工作に取り組んだりしました。

また、各日程ごとに異なるレクリエーションタイムを設けて、勉強を兼ねたりフレッシュをしました。リトマス試験紙での実験や、ディスクゴルフ、英語や中国語の先生の研究室も訪問しました。子どもたちは、なれない言葉には緊張もしたようですが、コミュニケーションをとろうと一生懸命でした。

大学の図書館も訪問し、小学校とはまた一味違った大学の図書館に驚いていたようでした。

普段出来ない貴重な経験が出来、子どもたちはとても楽しんでいました。

地域災害ボランティア



10月に「災害ボランティア講座」を開催しました。炊き出し体験や、ボランティア活動の実際として神戸大学の足湯ボランティアの活動における被災者の心の声を聴き取る実践の紹介がありました。11月の大学祭においても、県立大学内の災害ボランティア啓発活動や災害ボランティアに関するパネル展示及びフリーマーケットを行いました。

地域交流ディスクゴルフ大会

地域と大学とを結ぶ営みの一つとして、山口県フライングディスク協会と協賛し、山口県立大学キャンパスにて「YPU杯地域交流ディスクゴルフ大会」を開催しました。ディスクゴルフは、ボールの代わりにディスク（フリスビー）をカップ代わりのゴールに入れるという競技です。

フライングディスク全国チャンピオン 大内勝利さんによる講習会も行われました。

放課後子ども教室ボランティア



10月から、地域の大人とともに、本学の学生ボランティアが子どもたちの学習相談等に応じる「放課後子ども教室」のサポートをしました。

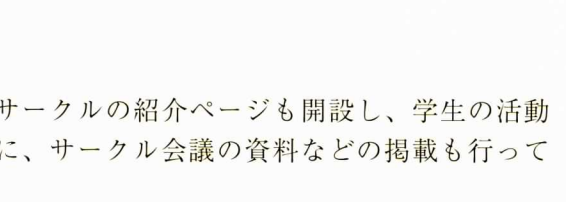
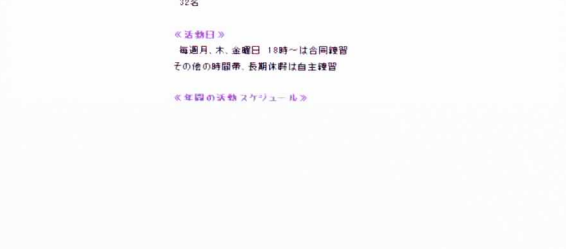
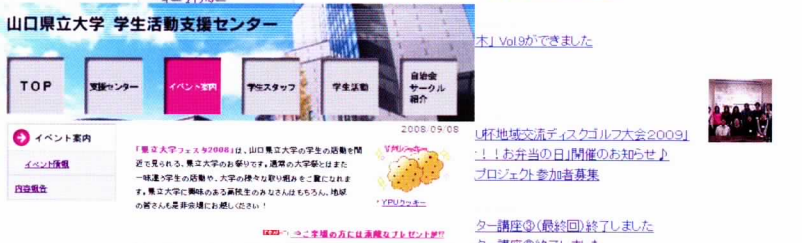
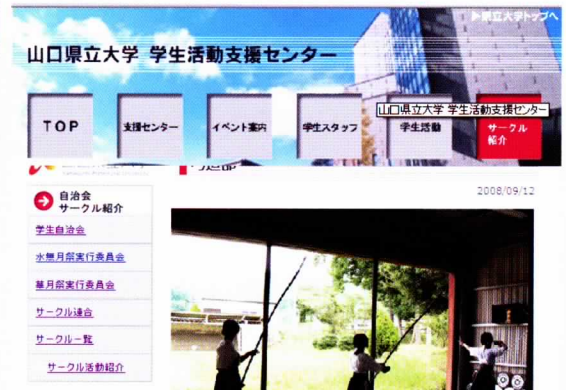
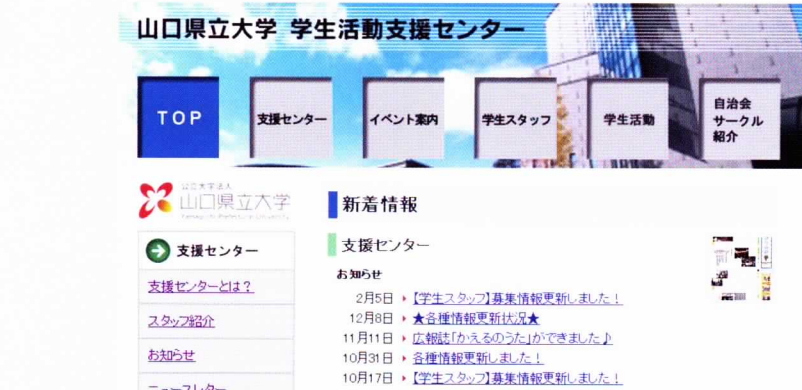
開校式には、県立大学からは、留学生を含む5名の学生ボランティアが出席しました。学生たちは早速、子供たちの中に入って話しかけるなど、とても良い雰囲気教室全体を包み込んでいました。

放課後子ども教室は3月まで開催され、学生たちは定期的にサポートを行いました。



学生活動支援センター ホームページ

学生活動支援センターではホームページを開設し、学内掲示とあわせて、学生スタッフ募集やイベントの開催予告、活動状況の報告などを随時行っています。



自治会やそれぞれのサークルの紹介ページも開設し、学生の活動を広く広報すると同時に、サークル会議の資料などの掲載も行っています。

広報誌の発行



学期ごとに広報誌「かえるのうた」を発行し、学内・地域に配布しています。学生スタッフの活動や、県立大学フェスタ2008について取り上げました。

発 行 公立大学法人 山口県立大学
学生活動支援センター

発行日 2009年 3月

電 話 083-928-3478

U R L <http://blog.ypu.jp/gakukatsu/>